

福祉 ぐんま

NO.245
2013 夏号



社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会



■主な内容

- * 地域福祉活動計画の策定に向けて・・・2
- * 群馬県福祉サービス運営適正化委員会・・・3
- * 平成24年度事業報告・決算概要・・・4～5
- * ボランティア情報・・・6～7
- * 素敵な笑顔・・・8
- * あなたのお仕事探しを効率的に！求職者マイページ・・・8
- * 県社協からのご案内・・・8

特別養護老人ホーム しみずの里
松島 有紀さん
(関連記事は8ページに掲載)



「福祉ぐんま」の作成経費として共同募金配分金を使用しています。

地域福祉活動計画の策定に向けて

地域福祉を推進するために、市町村が策定する行政計画を「地域福祉計画」といい、社協が中心となり策定する民間の活動行動計画を「地域福祉活動計画」といいます。両計画は共に「住民参加」を基本としていることから、計画策定のプロセスや計画に盛り込む内容を共有し、役割を明確にしながら策定することが望まれます。

今回は、両計画の基本的な視点について確認します。

● 計画策定の現状

平成25年3月末現在、本県における地域福祉計画策定済市町村数は14箇所、地域福祉活動計画策定済市町村社協数は16箇所です。前掲の14箇所については、策定プロセスを共有しながら両計画を一体的に策定しています。

● 地域福祉計画の位置づけ

地域福祉計画は、平成12年6月に成立した社会福祉法第3条の福祉サービスの基本的理念を実現するために、第4条の地域福祉の推進を図るものであり、その具体的な手段の1つとして地域福祉計画が位置づけられています。

● 地域福祉活動計画の位置づけ

法的な位置づけはありませんが、地域福祉活動計画の歴史の変遷を確認すると、社協の創生期や社会福祉協議会基本要項まで見て取れます。全社協では、地域の福祉課題の明確化、住民の福祉活動の推進、公民の社会福祉関係者の連絡調整、福祉活動や福祉サービスの企画・実施を踏まえ、地域の福祉を計画化する必要性から、昭和59年に計画理論の統一的理解を図るために「地域福祉計画－理論と方法」を取りまとめました。

その後、平成2年の社会福祉関係八法の改正等の影響もあり、平成4年には、新・社会福祉協議会基本要項の策定、さらに地域福祉活動計画策定指針を策定し、社協が中心となって策定する計画を地域福祉活動計画として整理し現在に至っています。

● 計画策定の課題

新たな策定及び計画実施期間の到来などにより更新する場合は、次の課題等を整理しつつ進める必要があります。

1. 新規策定に向けて

計画策定には、住民参加による策定プロセスを重視することから、その策定手法を理解し住民と共に策定する仕組みを整えていくことが重要です。また、策定にあたり当該市町村・関係機関団体等、多くの関係者の参画が必要となります。

2. 進行管理と評価・検証

計画の評価については、具体的な評価方法が確立されてはいませんが、計画目標とされたニーズがどの程度充足し実現したか、また、住民の理解がどの程度進んだか、関係機関団体との連携・役割分担、活動の財源確保など、総合的に評価していく必要があります。



平成25年3月末までに策定された榛東村・片品村の計画



平成25年3月末までに策定された太田市・大泉町の計画

群馬県福祉サービス運営適正化委員会

平成24年度 苦情相談受付状況

平成24年度に委員会に寄せられた苦情は26件で、概要は次のとおりです。

苦情を種別で見ると、高齢者が17件でもっとも多く全体の65・4%、次いで障害者が4件、15・4%、児童2件、7・7%の順になっています。

主な苦情内容は、「職員の接遇」

と「サービスの質や量」で、全体の7割以上を占めています。

申出人の属性としては、家族からの苦情が14人で最も多く、次いで利用者本人の5人の順となっています。

また、26件の申し出のうち、17人が匿名によるものです。利用者と事業所とはまだまだ対等

になっていないことが窺えます。委員会の対応としては、相談・助言が13件、紹介・伝達が9件となっています。

また、苦情以外にも相談（苦情までにはいたらないケース等）については、32件受け付けました。それぞれの種別・申出人の内訳は以下の表のとおりです。

■苦情先

施設種類		件数
高齢者	特別養護老人ホーム	4
	グループホーム	2
	デイサービスセンター	2
	高齢者専用賃貸住宅	2
	有料老人ホーム	2
	ショートステイ	1
	ケアハウス	1
	介護老人保健施設	1
	居宅介護支援事業所	1
	老人センター	1
	小計	17件

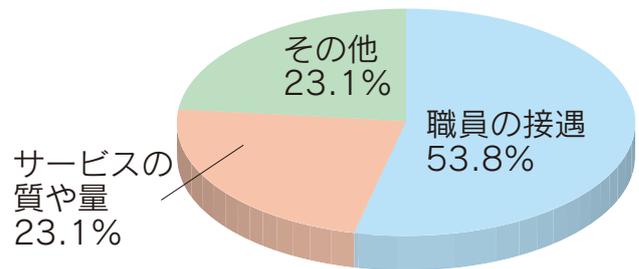
施設種類		件数
障害者	地域活動支援センター	1
	精神科デイケア	1
	障害者支援施設	1
	居宅介護支援事業所	1
	小計	4件

施設種類		件数
児童	保育所	2
	小計	2件

施設種類		件数
その他	行政	1
	救護施設	1
	不明	1
	小計	3件

計	26件
---	-----

■苦情内容



■苦情相談・申出人の属性

	利用者		家族		代理人		職員		その他		合計	
	苦情	相談合せ	苦情	相談合せ	苦情	相談合せ	苦情	相談合せ	苦情	相談合せ	苦情	相談合せ
高齢者	2	2	10	5	0	0	3	6	2	0	17	13
障害者	2	4	3	2	0	0	0	4	0	0	5	10
児童	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	2
その他	1	3	0	0	0	0	0	3	1	1	2	7
合計	5	9	14	8	0	0	4	14	3	1	26	32

平成24年度事業報告・決算概要

本会の基本理念に掲げる「県民だれもがともに支え合い、住みなれた家庭・地域で、その人らしく安心して暮らせる福祉社会」の実現のため、活動推進計画に基づき、市町村社協や民生委員・児童委員、社会福祉施設、関係社会福祉団体、そして県との連携の下で、各種事業を実施しました。以下、その概要を報告します。

● 主な実施事業 ●

1 住民による地域福祉活動の活性化推進

- ①市町村社協地域福祉活動計画の策定支援 35回
- ・地域福祉計画・地域福祉活動計画策定研修会の開催 62参加

- ②住民支え合い課題解決事業

- ③福祉コミュニティネットワーク支援事業 3社協指定

- ④市町村社協トップセミナーの開催 147名参加
- ⑤社会福祉法人新会計基準への円滑な移行支援のため市町村社協を対象に2回研修会を開催

- ⑥ふれあい・いきいきサロンの推進
- ・サロン設置状況調査の実施活動数 1,986カ所
- ・ふれあい・いきいきサロン推進セミナーの開催

- 中部・西部・東部・利根沼田・吾妻ブロック 計1,306名参加
- ⑦歳末たすけあい運動の実施
- ⑧保護児童・交通遺児への就学援助金の給付

2 ボランティア・市民活動、NPO法人等による地域活動の推進、福祉教育の充実

- ①ボランティア情報・相談コーナーの設置運営
- 月々金曜日午前9時～午後5時

- ②ボランティア等活動機材貸出事業
- ③社協ボランティアセンター担当職員研修セミナーの開催 24名参加
- ④協働によるボランティア・市民活動の推進

- ⑤ぐんまボランティアフォーラム2012の開催 847名参加
- ⑥福祉教育(学童・生徒のボランティア普及事業)

- ・社会福祉協力校15校指定
- ・地域指定福祉協力校モデル事業 3地区指定
- ・福祉教育セミナーの開催 86名参加
- ・福祉教育実践研究会の開催 4回開催
- ・防災と福祉教育実践ハンドブックの作成・配布
- ⑦介護等体験事業
- ・体験申込大学等42大学、体験者695名、受入施設 230施設

3 福祉分野における防災・災害救援活動の強化

- ①県総合防災訓練への参加
- ・災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練の実施
- ②災害ボランティアセンター設置訓練(机上訓練)の実施
- ③東日本大震災ブロック派遣職員等活動実践報告会の開催 39名参加
- ④災害避難所運営研修会の開催 68名参加
- ⑤災害支援セミナー
- ・災害ボランティアコーディネーター研修・初級編 32名参加、中級編 22名参加

4 低所得者・失業者等への生活支援の強化

- ①生活福祉資金貸付事業 貸付決定 1,188件 貸付決定額 300,798,17

- 3千円
- ②臨時特例つなぎ資金貸付事業 貸付決定22件 貸付決定額 1,263千円
- ③要保護世帯向け不動産担保型生活資金貸付事業 貸付決定10件 貸付決定額 44,141千円
- ④生活福祉資金総合支援資金面談を通じての援助活動 延べ453件
- ⑤貸付事業等の債権管理の強化・償還指導の実施
- ⑥生活福祉資金(総合支援資金)債権管理要領及びマニュアルの策定
- ⑦生活福祉資金貸付審査等運営委員会の開催

5 日常生活自立支援事業の推進

- ①認知症高齢者等福祉サービス利用支援事業にかかる援助体制の整備
- ・12基幹社協に一部委託
- ・利用契約締結数 24年度216件(累計2,176件)
- ②24年度末実利用契約者数912名
- ③相談事業(障害者110番事業を含む)の実施

6 福祉サービス運営適正化委員会

- ①福祉サービス運営適正化委員会本会議の開催

7 虐待や悪質商法被害の防止、早期発見・対応に向けた取り組み

- ①障害者に対する虐待防止、権利擁護の推進
- ・障害者110番事業の実施 相談件数 402件
- ②暴力や虐待を考える県民のつどい事業
- ・虐待(障害者・高齢者・家庭に潜む子ども)の虐待とDV防止セミナーの開催 3回 487名参加
- ③心配ごと相談所中央センター事業 相談件数45件、巡回研修11回開催

8 社会福祉法人・施設の福祉サービス事業者への支援

- ①群馬県青年経営者会への支援
- ②地域子育て支援センターへの支援
- ③「障害福祉部会」始動のための準備会開催 2回
- ④福祉サービス第三者評価の推進
- ⑤法人・施設経営指導の実施

- ⑥ 新会計基準に関する研修会 (障害・高齢・保育別) の開催 3回、330名参加
- ⑦ 群馬県社会福祉協議会民間社会福祉施設等職員共済事業の実施
435法人 980施設、16,095人加入
- ⑧ 民間社会福祉施設等関係者海外研修事業の実施 デンマーク・スウェーデン 18名参加
- ⑨ **福祉サービスを支える福祉人材の確保への取り組みと人材育成への貢献**
- ⑩ 福祉人材無料職業紹介事業の実施
・新規求人数 8,157名
・新規求職者数 3,826名
・紹介数824名・応募数1,344名 就職数466名
・「福祉マンパワーニュース」の発行 年6回
- ⑪ 福祉・介護人材マッチング機能強化事業の実施
施設・事業所・養成校・ハローワーク等への訪問 延べ362件
採用件数 260件
- ⑫ 介護職員等確保対策事業の実施
求人先開拓 延べ61件、求職者開拓 延べ58件、新規就労に向けた活動 延べ37件
関係先機関訪問・協議 延べ65件

9
福祉サービスを支える福祉人材の確保への取り組みと人材育成への貢献

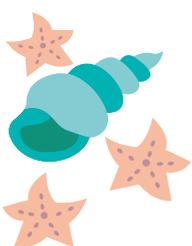
- ④ 介護福祉士等修学資金貸付事業の実施
貸付 94名 貸付決定額 141,390千円
- ⑤ 福祉関係従事者に対する研修の企画・実施 直営研修コース11コース、延べ開催日数101日 研修参加者 延べ3,716名
- ⑥ 介護支援専門員実務研修受講試験の実施
受験者数 2,324名
合格者数 460名
- ⑦ 福利厚生センター事業の実施
97法人・204事業所
加入職員数3,421名

10
広報活動の充実

- ① 広報紙「福祉ぐんま」発行 年4回
- ② ホームページの運用

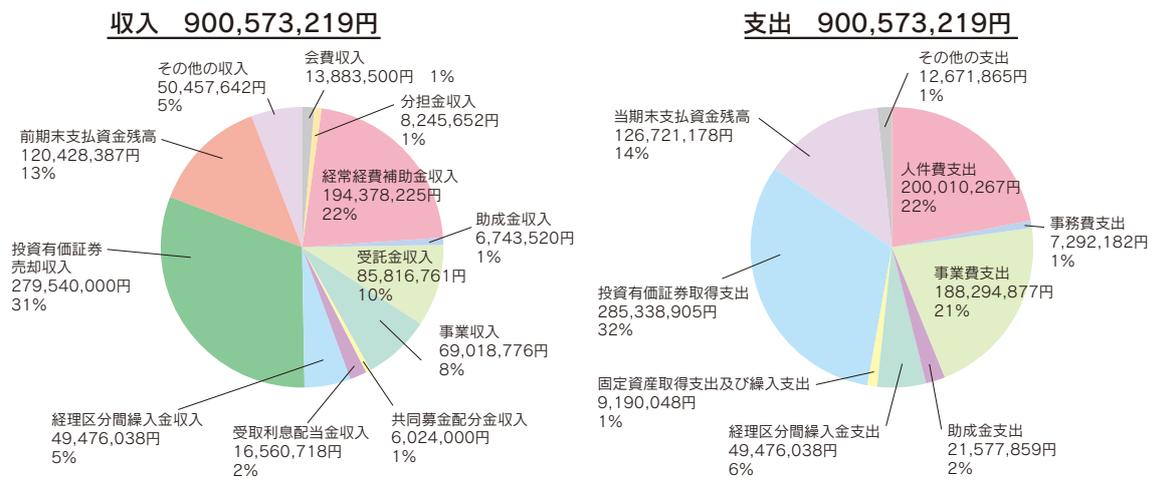
11
その他の事業

- ① 県社協組織検討委員会の開催
- ② 社会福祉振興基金事業の実施
- ③ 福祉バス「愛の募金号」の運行

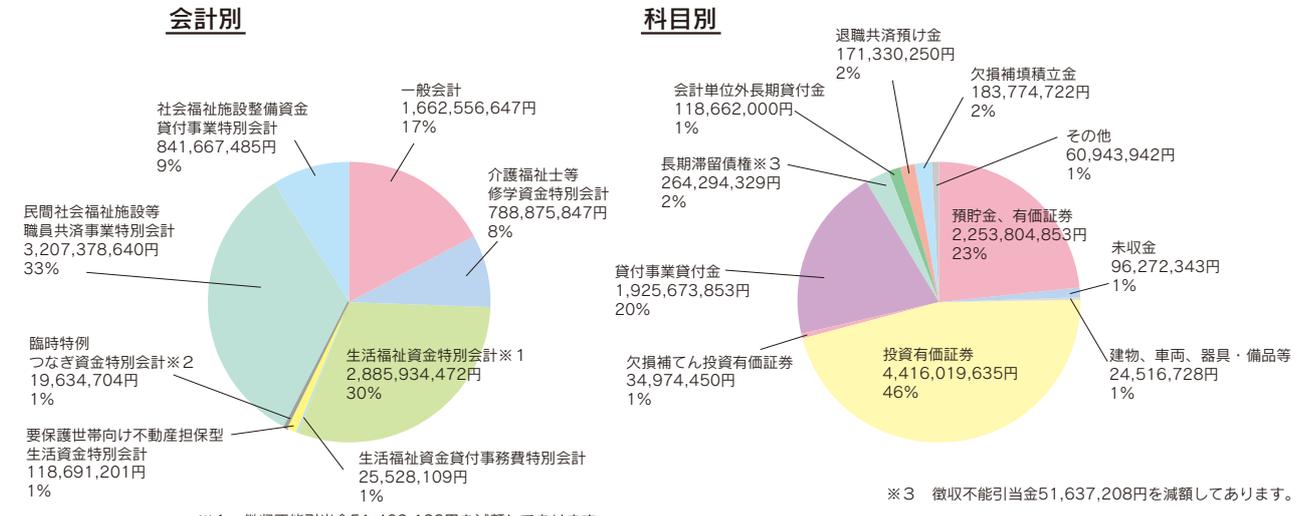


決算

1 一般会計資金収支計算書



2 資産構成 (総資産額9,550,267,105円)



※1 徴収不能引当金51,463,188円を減額してあります。
 ※2 徴収不能引当金174,020円を減額してあります。
 ※3 徴収不能引当金51,637,208円を減額してあります。

Hello! ボランティアセンター

前橋市社会福祉協議会ボランティアセンター

前橋市社会福祉協議会ボランティアセンターでは、ボランティアコーディネーションやボランティア育成の他にも様々な事業を行っています。

その中でも、「ボランティアサポートプログラム」は、知識や技術、経験、趣味を持ち、講師を務めてくださるボランティアさんに、場所や広報、資材整備などで応援させていただく事業です。

現在実施しているのは「子どもお天気教室」、「初心者パソコン教室」、「親子でクワガタ・カブトムシ飼育講座」、「車椅子レクダンス体験学習」の4講座です。どの講座も毎回ご好評をいただき、抽選の倍率が毎年10倍を超える講座もあります。

この中で、最も長く講座を続けている「子どもお天気教室」では、日本気象協会で自然観測をしてきた「お天気おじさん」から、専門的な知識をわかりやすく学ぶことができると評判です。25年度もたくさんの小学生からご応募をいただき、スタートしています。

今後もこれらの講座を続けながら、新しい講座も作っていきます。前橋市で知識や技術・経験・趣味をお持ちの方の「やってみたい!」の声を、職員一同お待ちしております!



「子どもお天気教室」での子どもたちと「お天気おじさん」の様子

前橋市社会福祉協議会ボランティアセンター
〒371-0017 前橋市日吉町二丁目17-10

前橋市総合福祉会館内

TEL・FAX 027-232-3848

ボ
ラ
ン
テ
ィ
ア
情
報

富岡市災害ボランティアセンター設置訓練 ～富岡市総合防災訓練より～

5月19日(日)、富岡市一ノ宮運動場および一ノ宮体育館、ほか市内各地において富岡市総合防災訓練が行われました。

富岡市では過去10年以上にわたり、市独自で毎年防災訓練を実施しており、富岡市社協も車いす体験等の実施を通して関わりを持ち続けてきました。その後、平成18年に市社協として初めて災害ボランティアセンターの設置



コープぐんまと市内バイクボランティアによる支援物資輸送訓練の様子

運営訓練を実施し、県や県内企業等の支援を受けて発足した県域災害支援団体である「災害ボランティアぐんま」をはじめ、関係機関団体等と連携し内容や手順等の改良も行いながら今日に至っています。

今回は、震度7の非常に強い地震により、家屋の倒壊、火災の発生、ライフラインの途絶など甚大な被害が発生したという想定のもと、コープぐんまや市内のバイクボランティアによる支援物資輸送訓練等を実施し、市社協としても万が一の場合に備えた取り組みが行われました。また、市全体の訓練として、各地域における要援護者の安否確認も実施されました。



災害ボランティアセンター設置運営訓練前の打合せの様子

社会福祉協力校 渋川市立上自井小学校

1. 福祉教育の目標

渋川市は、群馬県の中央に位置し、本校はこの渋川市の北端、子持地区にあります。学校周辺は、自然が豊かで農地も多く、コンニャクイモの生産が盛んです。児童は素直で明るく、素朴な温かさが感じられます。「いきいきした子、心豊かな子、たくま

ましい子」という学校教育目標を掲げ、福祉教育では、他人の気持ちや立場を理解でき、共に励ましあい、共に生きることのできる児童の育成を目指しています。

2. 取り組み内容の紹介

「福祉タイム」という行事の間や児童会活動を中心に、活動に取り組んできました。

(1) 花いっぱい運動

校舎の前にある花壇にサルビアやチューリップ等を植えて、育てました。暑い中、植え付けたり、草をむしったり、全校で頑張りました。サルビアの苗は地域の方が育てたものをお願いを、一緒に植えました。

(2) お年寄りとの交流

運動会に応援に来ていただいたこうと、子どもたちが招待状を

書き、お年寄りを招待しました。手作りのカードを作り、当日に言葉を交わしながら手渡ししました。また、3・4年生と地元自治会のお年寄りがグラウンドゴルフ大会を行い、交流しました。

(3) 感謝の手紙

日頃からお世話になっている校外の方々に、児童が手紙を書き、感謝の気持ちを伝えました。校外学習でお世話になった方や交通指導員、花苗をいただいた方など、子どもたちが自分たちで手紙を渡す人を考え、自主的に書くことができました。

(4) エコ募金

月に1回、児童会や環境委員会の児童と職員が、朝、募金活動やアルミ缶、エコキャップの回収を行いました。

3. 3カ年の成果と課題

3カ年の活動を通して、福祉について知ることができるとともに、お年寄りや地元の方々など、普段接する機会の少ない人と話をしたり、手紙を出したりすることで、相手の気持ちを考えて接することの大切さを学ぶことができました。また、様々な活動を通して、児童が自ら考え、進んで活動する力を身に付けることができました。今後、地域社会との交流活動や福祉体験をより一層充実させていきたいと思えます。



手作りのカードを手渡ししている様子

ぐんま暮らし応援会

ぐんま暮らし応援会では、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故よって、群馬県に避難している方々の生活再建に向けた支援を行っています。

具体的な活動内容としては、同郷の方同志の交流や避難生活における困りごと相談等を話せる場としての「集いの会」の開催や、なかなか集いに出て来られない方のために、同じく避難生活をしている訪問支援員がご自宅にお伺いし、色々な悩み等について一緒に考えています。

活動内容の詳細や活動にご協力いただける場合は、下記までお気軽にお問い合わせください。

〒370-3521 群馬県高崎市棟高町954-8
認定NPO法人じゃんけんぽん2階
TEL: 027-333-1635 メール: gunma.kurashi.ouenkai@gmail.com
Facebookページ「ぐんま暮らし応援会」で検索ください

夏号表紙

素敵な笑顔

桐生市黒保根町の豊かな緑に囲まれたしみずの里で働く松島有紀さん。9年というキャリアを活かして資格取得を目指しつつ、趣味の音楽では、これからフルートに挑戦するところ。

※介護職員になっただけは？

実は短大時代、音楽の先生を目指していたんです。その教職免許を取るために必要とされる介護実習で、初めてしみずの里を訪れました。その時に、職員の方たちが明るく、やさしく接してくれた雰囲気が入り、こういう職場で働きたいなと思っただけです。

※どんな仕事ですか？

利用者さんの生活全般のお手伝いをするのが仕事です。日常生活でのお世話はもちろん、精神面のケアにも心がけています。お話を聞いたり、一緒に散歩をしたり、外出をしたりする中で、できるだけ利用者さんの心に寄り添うようにしています。

※仕事で大切なと思うことは？

「気づき」が最も大切だと思います。利用者さんが今どうしてほしいか、何をしたらよくなるか、それに気づいてあげられることが何より大事なことだと思います。また、笑顔でいることも大切です。利用者さんはこちらの気持ちにとっても敏感なので、



※音楽が好きだと聞きましたが？

音楽は聴くのも演奏するのも大好きです。小さいころからピアノを習っていたので、ホームにある電子ピアノを弾いて、利用者さんたちと歌を歌ったりしています。中学、高校時代は、吹奏楽部でクラリネットを吹いていたので、短大でもクラリネットを専攻していました。次はフルートをやってみたいなど思っています。フルートを吹いている姿って女の子っぽくていいなと思って。とにかくいろいろな楽器に挑戦してみたいです！

※最後に、福祉に興味のある方に一言お願いします。

最初は自分の仕事で精一杯で「大変」と感じるかもしれないですが、たくさん人と接して、経験を重ねるうちに、自分の視野はどんどん広がります。自然と周りも見えるようになってきます。きっと楽しくなってくると思うから、それまであきらめないで頑張ってくださいね。あと、若い人たちにもどんどん入ってきてほしいです！

笑顔でいることは常に心がけていますね。その方がお互いに楽しいですし、利用者さんには少しでも心を聞いてほしいですからね。

音楽が好きという松島さん。最近は運動不足解消のためボルダリングへ行きはまってしまったそうです。「次は前回よりも上へ登りたい」その向上心が仕事でのスキルアップを目指す源となるのでしょう。

あなたのお仕事探しを効率的に！求職者マイページ

「福祉のお仕事」ホームページに新機能「求職者マイページ」が追加されました。

毎日「福祉のお仕事」をチェックするのはむずかしい・・・

「いいな」と思った求人をつか比べてから考えたい・・・

今すぐ就職というわけではないけれど、情報はチェックしておきたい！

そんなあなたにおススメです

- ★「求職者マイページ」に登録すると、あなたの希望条件にあう求人票を毎日自動で検索します。
- ★検索結果は「求職者マイページ」からチェックでき、新着求人はメールでもお届けします。
- ★希望する地域の福祉人材センター・バンクが主催する就職フェアやセミナー等のお知らせもメールでお届けします。



登録は「福祉のお仕事」トップページから！

こちらをクリック

問い合わせ先
群馬県福祉マンパワーセンター
TEL027-255-6600

群馬県社会福祉大会日程変更のご案内

平成25年11月25日(月)前橋市民文化会館に変更となりました

群馬県社会福祉協議会正規職員の公募

採用日 平成26年4月1日 採用予定 2名
資格要件 年齢29才まで(～S59.4.2生)、大学卒、社会福祉士、普通自動車免許(AT可)のすべてを満たす方
1次試験日 平成25年10月中旬(教養試験ほか)
詳細は決まり次第(平成25年8月上旬)HPにて案内します。
電話によるお問い合わせはHP掲載後とさせていただきます。

編集/発行
社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会
〒371-8525 (専用郵便番号)
群馬県前橋市新前橋町13-12
群馬県社会福祉総合センター内
TEL 027-255-6033(代表)
FAX 027-255-6173
URL http://www.g-shakyo.or.jp/
発行日 平成25年7月1日